



第4回四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展「四国の彩り」から

「特別な色―赤」

四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展は、四国内の埋蔵文化財センター5団体が合同で開催する巡回展で、今回は「四国の彩り」をテーマに展示を行い、四国内の出土品や発掘調査で出会ったさまざまな色について紹介しています。



▲若杉山遺跡の石灰岩に含まれる水銀朱

なかでも、「赤」については「特別な色―赤」として大きく取り上げました。「赤」の原料には辰砂（水銀朱・硫化水銀）やベンガラ（酸化第二鉄）があり、縄文時代以降、漆器や土器など器物への塗彩に利用されました。

辰砂は特に貴重で、弥生時代〜古墳時代中期には、一部の墳墓や古墳の埋葬施設で辰砂を大量に塗布する行為が認められ、彩りのためというより、死者の鎮魂や再生を願うなど、呪術的な性格が想定されています。今回は徳島県の犬山天神社古墳の箱式石棺から出

土した頭骨を展示しています。骨の表面には辰砂が見られ、埋葬の際に辰砂を塗布したことがわかります。鑑定の結果、50代の女性であることがわかりました。

当時、中国大陸から辰砂が流入していたと考えられる一方、徳島県には辰砂を産出する「阿波水銀鉱床群」があります。その一角にある若杉山遺跡では、弥生時代後期〜古墳時代前期の、辰砂原石や精製に利用した石器が多数出土しており、辰砂の採掘と精製が行われたことがわかります。今回展示中の徳島県名東遺跡の石柁も辰砂の精製に使われ

たもので、「赤」い色が鮮やかに残されています。

一方、今回香川会場の一部を特別展示する「県有形文化財（考古資料）上天神遺跡出土辰砂関連資料」は、鉢や把手付広片口皿など辰砂の加工に関わる専用容器および辰砂が付着する土器で、一・二六一点に及ぶ資料です。遺跡からは、辰砂の精製には欠かせない石柁や台石は出土しておらず、かなり精製された状態で遺跡に持ち込まれたと考えられます。



▲那賀川流域の山中にある若杉山遺跡

辰砂利用に関連する遺物は、香川県旧練兵場遺跡（善通寺市）のほか徳島県、愛媛県、岡山県などの拠点的な大集落でも出土しますが、上天神遺跡ほど多くの資料が出土することはありません。生産地から遠方の集落でありながら、精製した辰砂を多量に手に入れ、何らかの加工を集中的に行ったことが想定されます。辰砂の利用や流通を考えるうえで貴重な資料です。

「特別な色―赤」コーナーでは、この他、旧練兵場遺跡（善

通寺市）から出土した赤色顔料

（辰砂・ベンガラ）の精製に使用した石臼（ベンガラが付着）、石柁（辰砂が付着）や、把手付広片口皿を展示しています。香川県内の拠点的な集落である旧練兵場遺跡の、上天神遺跡とは違った赤色顔料の持ち込まれ方にも興味がかかります。

かしの人々の豊かな色彩に触れていただけだと思います。



▲辰砂の精製に使う石臼（徳島県名東遺跡）



▲把手付広片口皿（香川県上天神遺跡）



▲朱で彩られた石棺の一部（香川県けぼ山古墳）

展示・考古学講座のお知らせ

●第4回四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展「四国の彩り」

日時：平成30年10月2日火〜12月14日金

9時〜17時

休館日：土曜日・日曜日・祝日

※11月3日（土・祝）、11月11日（日）

11月24日（土）は開館

観覧料：無料

解説会：11月11日（日）10時〜11時

●特別展示 県有形文化財（考古資料）

「上天神遺跡出土辰砂関連資料」の一部を展示します。

●第3回香川県埋蔵文化財センター考古学講座

「火をおこす」

本講座では、人間と火との関わりについて「火おこし」の観点からその歴史を考えます。香川県における発火具の移り変わりを中心にその歴史的背景を解説します。

日時：平成30年11月24日（土）10時〜12時

会場：香川県埋蔵文化財センター 講習室

講師：蔵本晋司（香川県埋蔵文化財センター 主任文化財専門員）

定員：30名（申し込み先着順）

聴講料：無料

申込先

電話がメールでお申し込みください。メールの場合は、お名前・ご住所・年齢・連絡先を記入してください。詳しくは本センターのホームページをご覧ください。

2018年（平成30年）10月

発行：香川県埋蔵文化財センター

〒762-0024

香川県坂出市府中町字南谷 5001-4

tel: 0877-48-2191 / fax: 0877-48-3249

HP: <http://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/>

E-mail: maibun@pref.kagawa.lg.jp

